

施設警備業務現任講師研修会報告

1, 全般

昨年の雑踏の講師研修会同様で2級の講師の方と一緒に行うものでした。

(一部違う科目もあります。)

人数は41名でした。

訓練は、前回同様18時で終了し、その後は、各人の勉強時間です。

ホール及びA研修室については、22時まで使用できました。

器資材を使用しての自主トレが今回から出来るようになりました。

研修終了後ホールに外周巡回、総合管理システム、出入管理(2級・1級)

の設営がなされ自由に使って良いことになりました。

久しぶりに1級科目を行う我々にとってありがたいです。

マスクについては、ホールでの訓練と研修での訓練は、マスク着用でした。

意見交換会が復活しました。意見交換会の食器は、紙製になっていました。

コップもプラスチック製でした。

2, センター長講和

センター長の講和については、今度始まるデジタル化についてでした。

特別講習の受付をデジタル化にしたり、実技をEラーニング化するのか

まだ、決まっていないそうですが、今後2～3年後には、デジタル化の

波が来るそうです。特別講習も変わっていくだろうとのことでした。

3, 学科

学科については、1級講師はA研、2級の講師はB研に分かれて実施でした。

今回は、少人数でしたので、班分けはありませんでした。

技研より指名された10名の先生方が、8分で指名された箇所を講義すると

いうものでした。さすが1級の先生方で素晴らしく、勉強になりました。

学科は、2日の1限目のみでした。

4, 実技

実技につきましては、先ず全員でホールにおいて礼式訓練（停止間）の訓練

でした。2級の先生が、前に出て号令をかけるというものでした。

1級講師の試験科目は、1級 外周巡回要領・業務管理（警備計画書の作成）

2級 出入管理・巡回実施要領（VTR）

でした。

2級講師の試験科目は、1級講師の実技及び警戒杖の応用

2級 出入り管理

でした。

訓練は、負傷者の搬送・警察機関への連絡・自火報を除き、その他全部。

基本は、集合をA研で行い、ホールで個別のスタイルでした。

集合の指導法の訓練は、個別6～7コースあり、集合実施時間も15分程度で、

基本2級の先生が指導法錬成を実施でしたが、技研が個別での修正をしていたら

個別と集合の入れ替えがあり、指導法ができなかった科目もありました。

警戒杖の基本操作要領に関しては、1級の先生のための訓練でしたので、指導法の錬成がありました。

5, 採点錬成

初日センター長の講和のあと、採点錬成のVTRの時間があり、1級科目の思い出しができます。特に、採点表とかがなく、VTRを見るだけの時間があります。我々にとっては、1級科目の思い出しに非常に役立ちました。

採点の錬成は、各訓練の最後とVTRでの採点錬成と転記は、最終日にあります。

6, 学科試験

学科試験は、初日に天からの声があり、

1級講師は 1級から10問、2級から15問 オレンジから5問 計30問

2級講師は、1級から20問 2級から15問 オレンジから5問 計40問

です。

終了考査の問題は、毎回違うそうです。

オレンジ本はたぶん同じなので（違っていたらごめんなさい。）、報告します。

- 講師の使命と心構え 特に講師の取り組み姿勢・講師の心構えの所
- 講義の事前準備 特にP70の学科講義P81P82の所
- 実技訓練の事前準備 特にP70の(4)(5)P89の(2)の所
- 実技試験採点上の留意事項 特にP103からP104
- 2級出入管理の各備品の配置 地図上に名称の空欄があり①②③で
出入管理簿一案内板一預かりトレー を組み合わせて正しいものを

選ぶ。(問題を変えられる可能性大)

7, 実施員考査

科目は、総合管理システム・外周巡回要領・2級出入管理・2級警戒杖の
4項目です。

2級講師は、警戒杖は1級の応用です。

8, その他

2級巡回で解答に「ドアノブに触れて施錠状態を確認する。」

「ドアノブに触れて施錠状態を点検する。」

のような解答があり、確認の方は、×になるとの事。正しくは、点検
であり、誤解答が多いそうです。確認と点検の違いを教えるよう指導あり。

2級警戒杖で本手の構え・逆手の構えの際の杖尾の位置がへその前に来ていない
受講生が全国的に多いようです。

本手打ち・逆手打ちの杖先・杖尾の握り位置としごき方がわからない受講生が
多く、教育のポイントの一つとのことでした。

総合管理システムで放水姿勢(水圧に耐えられる姿勢)をレクチャーするよう
との事でした。